

経営比較分析表（令和4年度決算）

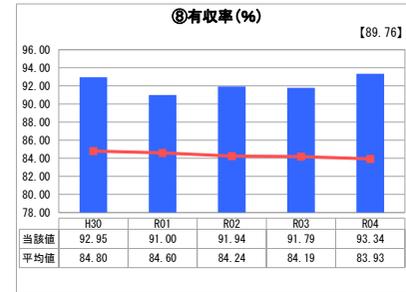
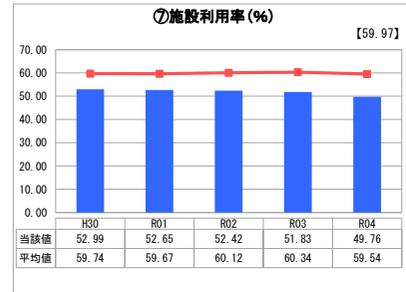
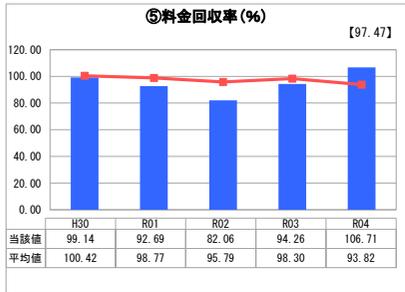
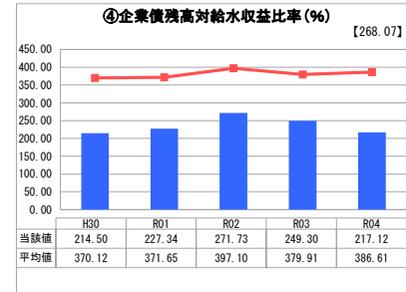
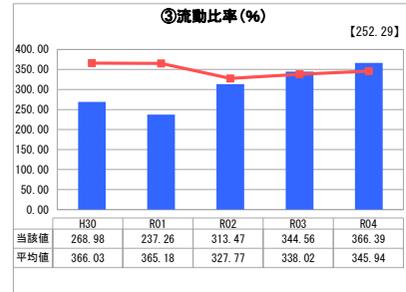
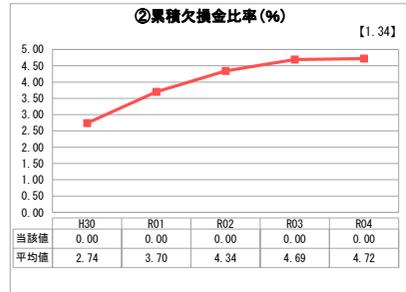
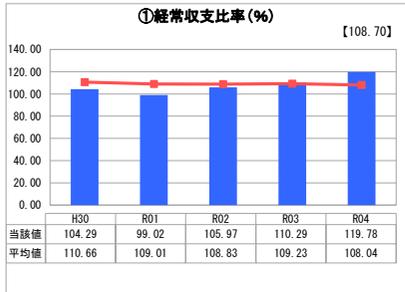
埼玉県 毛呂山町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり客産料金(円)	
-	80.77	99.86	2,593	

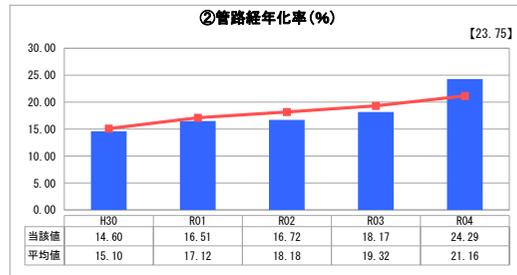
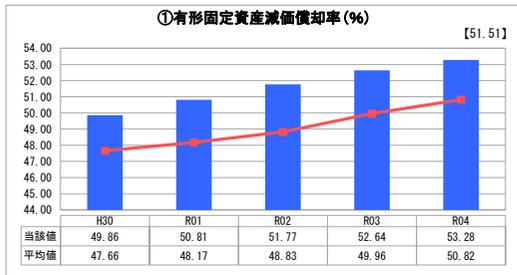
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
32,616	34.07	957.32
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
32,380	24.20	1,338.02

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率
100%を超えており、また前年より上昇している。単年度収支が黒字であることを示している。
- ② 流動比率
類似団体の平均を超えており、100%も大きく超えているが、今後の給水収益の減少を踏まえると、引き続き経営努力が必要である。
- ③ 企業債残高対給水収益比率
料金改定の影響もあり、比率は低くなっている。今後も適正な借入を検討していく必要がある。
- ④ 料金回収率
料金改定に伴い、料金収入が増加したため、類似団体平均値及び100%を上回る改善状況が見られる。
- ⑤ 給水原価
類似団体平均より低く抑えられているが、前年度より上昇しているため、投資の効率化や維持管理費の削減に努める必要がある。
- ⑥ 施設利用率
施設利用率が50%を下回ってしまった。今後の水需要を踏まえて施設のダウンサイジングの検討が必要である。
- ⑦ 有収率
前年度より上昇し、類似団体平均も上回っている。今後もこの水準を維持できるように努める。

2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率
年々増加傾向にあり、類似団体平均も上回っている。施設・管路などの老朽化が進んでいることが取れる。今後計画的な更新をする必要がある。
- ② 管路経年化率
前年度までくらべて、大幅に上昇し、類似団体平均も上回っている。耐用年数に達し、更新時期を迎えた管路が多いと考えられる。今後積極的な老朽管の更新を実施していく。
- ③ 管路更新率
前年度までと比べて大幅に上昇している。しかし、経年化率も上昇しているため、今後も高い更新率を維持していく必要がある。

全体総括

経営の健全性については、料金改定の影響もあり改善傾向にあるが、老朽化については年々悪化している状況である。今後人口減少と共に水需要は減少していくことが予想されるので、経営の健全性についても、現状を維持することも難しいと考えられる。将来の水需要に対応したスペックダウンや、施設・管路の長寿命化など効率化を進め、また、事務内容を見直し、統合できることについては、事務の広域化を図ることで更なる合理化を進めていく必要がある。